

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	バリアフリーに配慮した既存道路の拡幅・改良・新設事業			会計	款	項目	大	小
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	道路建設課			
施策	4-6	バリアフリーのまちづくり		主管課長	遠藤 茂			

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市民	意図	視覚機能や運動機能が低い歩行者の移動が円滑になされるよう道路の整備を図る。
事業内容	工事実施において、バリアフリー基準に配慮した道路整備を実施する。当該整備に係る道路事業は、区画整理や民間開発においても同様なことから本事業実施に向けた予算計上はしない。			
事業開始から現在までの状況変化	平成12年に当該整備に係る法整備がされ、以降における道路整備においては当該基準を満たすよう徹底してきている。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度	市内道路の大半は、当該整備基準前に整備されており、これらの道路に対する同基準の整合に対する課題が残る。また、同基準による整備に当たっても物理的条件や新たな用地確保等課題があり、市内全域での展開には、限界があることから新規道路整備区間において着実にバリアフリー化を進めている。			
事務事業の総コスト(a=b+c)							
事業費(b)(円)							
うち一般財源							
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数(年)（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H27)の改善計画	バリアフリー重点地区外にある道路のバリアフリー化の実施。
今年度(H27)に実施した取組	様々な工事を展開する中で事業対応。

取組の課題	開発行為や他課所管事業等に委ねるケースが多いため、計画的なバリアフリー化が図られていない。
今後の改善計画	ネットワークを形成するような連続性のあるバリアフリーを実施する。